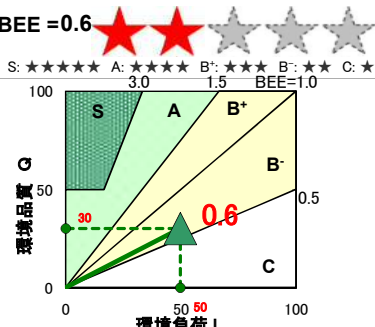


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	新P3駐車場建設工事 西棟	階数	地上4階		
建設地	愛知県常滑市セントレア1丁目12,3,4	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域・工業地域・準工業	平均居住人員	0人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年7月19日		
敷地面積	4,733,277 m ²	作成者	高橋一仁		
建築面積	4,079 m ²	確認日	2018年7月19日		
延床面積	15,704 m ²	確認者	高橋一仁		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

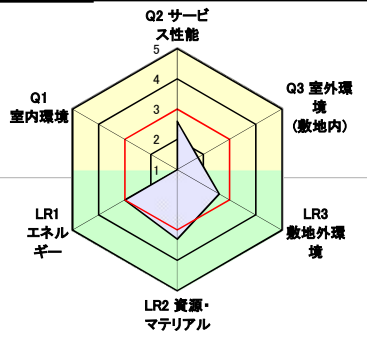
②建築物の取組み: #DIV/0!

③上記+②以外の: #DIV/0!

④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

機能性	2.8
耐用性	2.5
対応性	2.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物外皮の	N.A.
自然エネ	N.A.
設備システ	N.A.
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.0
非再生材料の	3.0
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

地球温暖化	N.A.
地域環境	2.3
周辺環境	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部			建物全体・共用部			居住・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質																			
Q1 室内環境																			
1 音環境																			
1.1 室内騒音レベル																			
1.2 遮音																			
1 開口部遮音性能																			
2 界壁遮音性能																			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																			
1.3 吸音																			
2 温熱環境																			
2.1 室温制御																			
1 室温																			
2 外皮性能																			
3 ソーン別制御性																			
2.2 湿度制御																			
2.3 空調方式																			
3 光・視環境																			
3.1 昼光利用																			
1 昼光率																			
2 方位別開口																			
3 昼光利用設備																			
3.2 グレア対策																			
1 昼光制御																			
3.3 照度																			
3.4 照明制御																			
4 空気質環境																			
4.1 発生源対策																			
1 化学汚染物質																			
4.2 換気																			
1 換気量																			
2 自然換気性能																			
3 取り入れ外気への配慮																			
4.3 運用管理																			
1 CO ₂ の監視																			
2 喫煙の制御																			
Q2 サービス性能																			
1 機能性																			
1.1 機能性・使いやすさ																			
1 広さ・収納性																			
2 高度情報通信設備対応																			
3 バリアフリー計画																			
1.2 心理性・快適性																			
1 広さ感・景観 (天井高)																			
2 リフレッシュスペース																			
3 内装計画																			
1.3 維持管理																			
1 維持管理に配慮した設計																			
2 維持管理用機能の確保																			
2 耐用性・信頼性																			
2.1 耐震・免震・制震・制振																			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																			
2 免震・制震・制振性能																			
2.2 部品・部材の耐用年数																			
1 躯体材料の耐用年数																			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																			
6 主要設備機器の更新必要間隔																			
2.4 信頼性																			
1 空調・換気設備																			
2 給排水・衛生設備																			
3 電気設備																			
4 機械・配管支持方法																			
5 通信・情報設備																			

3 対応性・更新性				2.5	0.48			-	2.5
3.1 空間のゆとり				1.4	0.31			-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				2.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		-	-			-	
2 給排水管の更新性				-	-			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.33			-	
4 通信配線の更新性				-	-			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.67			-	
6 バックアップスペースの確保				-	-			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0
LR1 エネルギー					0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用					-				-
3 設備システムの高効率化					-				-
4 効率的運用				3.0	1.00				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				-	-				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00				-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63				3.0
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	建物がほぼ躯体なので、分別が容易	5.0	0.25				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22				4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68				-
1 消火剤				-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材の使用なし	5.0	1.00				-
3 冷媒				-	-				-
LR3 敷地外環境					0.30				2.6
1 地球温暖化への配慮		①			-				-
2 地域環境への配慮				2.3	0.50				2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.3	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.33				-
2 汚水処理負荷抑制				-	-				-
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.33				-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33				-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.50				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	1.00				-
2 振動		独自		-	-				-
3 悪臭				-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制				-	-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート
新P3駐車場建設工事 西棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	2.7
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.21	1.0
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	空港南側地区における立体駐車場の増設。 車両動線は安全確保のため一方通行とし、可能な限り交差の少ない計画とした。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	防錆対策として躯体鉄骨は溶融亜鉛メッキとした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の既存立駐と仕様をあわせることで、周辺環境と調和した計画としている。
LR1 エネルギー	照明設備にLED照明を採用することで、エネルギー消費低減に努めている。
LR2 資源・マテリアル	建物がほぼ躯体のため、分別が容易。発泡断熱材の使用なし。
LR3 敷地外環境	周辺環境と調和する外観とした。
その他	